

宝塚市協働のまちづくり促進委員会 協働のマニュアル策定部会(第12回・第3期第1回) 会議録	
開催日時	平成29年12月12日(火) 18:30~20:20
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 協働のマニュアル策定部会作業班からの進捗報告 (2) 今後の協働のマニュアル策定部会の活動について 3 その他 4 閉 会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、成瀬委員、石谷委員、檜垣委員、溝口委員
開催形態	公開(傍聴人1)

## 1 開会

第12回・第3期第1回宝塚市協働のまちづくり促進委員会協働のマニュアル策定部会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は7人、欠席者は4人であり、過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること及び傍聴希望者は1名であることを報告した。

## 2 議事

### (1) 協働のマニュアル策定部会作業班からの進捗報告

檜垣委員より、進捗状況の報告を行った後、事例集の作成に向けて意見交換が行われた。主な意見は下記のとおり。

ア 表紙のタイトルは、角を付けた字体・デザインにしてはどうか。

イ 「聴く」や「聞く」などの文言や、インタビュー相手「〇〇氏」や「〇〇さん」を統一してはどうか。また、インタビュー相手を記載するのかもしれないのかも検討する必要がある。

ウ インタビュー相手は以前の会議で、見出しに入れるという話になった。

エ 事例集の使い方ページのフローチャート図の矢印を項目から直接事例につなげてはどうか。

オ 「お話をお聞きしました」を「お話をお聴きしました」に修正する。

カ まちキョンを各ページに入れ、コメントを入れてはどうか。

キ 協働のまちづくり促進委員会委員の名簿が必要ではないか。

→ 事務局にて修正後、次の全体会で提示することとなった。

(2) 今後の協働のマニュアル策定部会の活動について

下記のとおり意見交換がなされた。

ア 完成したマニュアルの普及活動が出来るような場があれば良いのではないかな。

イ【市】NPO法人との協働に関してどこで議論するか検討が必要になる。

ウ【会長意見】千葉県我孫子市では、市の事業で協働をしない場合の理由書が必要になる。また、提案型の協働事業に関して、NPO法人等が提案し採択されても、採択された事業を行う団体を再度公募する。提案した団体が事業をできると限らない。

エ【会長意見】三田市の提案型の協働事業は、法人格は問わず内容から公益事業であるか判断している。公益事業を行っているのが、NPO法人だけとは限らないからである。

オ マニュアル部会は、一旦休止しNPO法人との協働（契約関連）について、次回の全体会で提案してはどうか。

カ 全体会は人数が多く、意見を言わない人もいる。会議以外に、意見交換ができる場が必要ではないか。また、時には外に出ることも大切ではないか。

キ 視察を行ってはどうか。

ク 作業班くらいの人数がちょうど良い。

ケ【会長意見】全体会を二つに分け、前半はワークショップを行ってはどうか。

→マニュアル部会は一旦休止し、NPO法人との協働に関する事項を検討できないか、次回の全体会で提案することとなった。

3 その他

下記のとおり意見交換、情報交換がなされた。

ア 各まちづくり協議会を見て回るのはどうか。

イ【会長意見】20年後のまちの姿を視察するのであれば、池田市細河地区はどうか。ニュータウンの高齢化により、旧村と合体し小中一貫校にしている。実感が得られるのではないかな。

ウ【会長意見】三田市高平地区は、旧村の男性社会であったが、まちづくり協議会ができたことで女性や移住者の居場所ができた。

エ まちづくり計画の見直しガイドラインの策定に関して、どういう仕組みなのかきっちり示しておかないといけない。第6次総合計画にどう組み込むのか、前回の見直し時と同じようにしていたら進まないのではないかな。第6次総合計画をどのように作成するのか、どのように市民が参加するのかについての論議をしていかないと、実のある到達点まで行かないのではないかな。政策推進課にも出席いただき、流れになっているのか説明いただくなど、できるだけ早い段階で進めていく必要があるのではないかな。

オ【市】政策推進課と具体的な協議はできていない状況である。どのように見直しを進めていくのか、今日いただいた意見をもとに政策推進課と話し合いを進めていく。従来どおりの進め方ではいけないと、政策推進課も理解している。

カ【会長意見】三田市のまちづくり協議会では、活動報告会やワークショップを通じた意見交換会を行っている。

4 閉会